

青雲

22号 2020.3

発行人 / 一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

「青雲」

—— 題 字 ——

元島根県知事 澄田信義 氏



『進化』

出雲ドームは古代最大の木造建築・出雲大社を有する出雲市に、日本の伝統文化である木造建築をいかに現在の大空間構造として蘇えらせるかというコンセプトで設計されたといわれています。木造建築の技術が古代から名もなき職人や技術者の手を通して、脈々と受け継がれ、そして「進化」を続けています。

我々青年部会も先輩から受け継いだ今の最高を、青年らしい行動と自らの力で「進化」させ、それを後輩に繋いでいけるよう、精一杯努力をしてみたいと思います。

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲

22 MAR. 2020 VOL.22
CONTENTS

【巻頭言】

1 令和

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 内藤 正和

【次世代建設就業者育成事業】

- 3 次世代建設就業者育成事業の背景と目的／現場見学会・意見交換会の概要
- 4 建設機械搭乗体験
- 5 大田静間道路鳥井地区改良第3工事
- 6 斐伊川放水路事業説明・意見交換会・テレビ放送・新聞記事掲載
- 7 工事現場見学会・意見交換会に参加して
- 11 しまね建設産業イメージアップ女子会
- 12 アンケート結果
- 14 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)
経営研究委員会 委員長 三原惇志
- 15 出雲農林高校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業に参加して
経営研究委員会 副委員長 持田 充

【令和元年度事業報告】

- 16 第20回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 地域貢献委員会 委員長 今岡宏典
- 17 意見交換会2019 会員交流委員会 委員 石飛大輔
- 18 土木の日記念イベント2019 地域貢献委員会 委員 日野 肇
- 19 卒業にあたり
今岡工業(株) 今岡幹晴
岩成工業(株) 西村善文
(株)日本海建設 青砥正人
(有)丸嘉土建 山根英二
(株)内藤組 内藤正和
(株)佐藤組 佐藤精一
- 21 新入会員紹介
出雲土建(株) 石飛善行
ヒロシ(株) 落合和典
(有)米江組 米江 将
- 22 編集後記 総務広報委員会 委員 御船善弘

令和

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 内藤 正和



日本の国民が待ちに待った歴史的瞬間である、平成から令和への改元が5月1日に行われました。天皇陛下が上皇となり、その位を生前に譲位されて皇太子殿下が天皇に即位される事は、誰しも実際に経験したことがなく、まさに歴史の新たな1ページを刻むのに立ち会った瞬間でした。また、10連休と今までにない大型GWの真っ只中と言う事もあり日本列島はお祝いムード一色に包まれるおめでたい日を迎えました。同時に、世界は今まさに急激な変化を遂げており、狩猟生活を送っていた人類が農業革命、工業革命、サービス革命と、これまでその生業の中心を変化させてきた進化をこれまでにない位に加速させ、IT、情報革命はこれまでとは全く違う世界へ私たちを誘っています。そんな現代において人間として『令』を尊び、『和』を以て社会を形成するのは非常に重要だと考えますし、その意味ではとても良い元号になったと思います。誰もが常時カメラを持ち歩き、世界に向けて情報発信できる昨今、あらゆる情報がさらされるようになりました。私たちは法治国家に暮らす以上、法令遵守は基本中の基本ですが、今のネット社会で炎上している事例を見ると、単に法律を破って非難を浴びるだけではなく、人としての「あり方」を問われていることが少なからずあると感じました。

そんな令和の時代を生き抜く為には、法に縛られなくても正しい道を進みたいと思う原理原則に基づいた人として適切な判断を積み重ねること、人に向き合い、調和を重んじることではないかと思います。いつも思うのは、本当に業績が良い会社は工事品質へのこだわりが強く、同時に協力業者さんとの関係強化に心を砕いておられることです。元請け、下請けと言う関係ではなく、業者会の参加企業を真のパートナーだと言われる会社ほど、当然多くの職方が関わる建設現場での工程の流れもスムーズになり、次工程を考えた工事を全員が意

識的に行えば、工期は短縮され品質も利益率も顧客満足も高まると思います。まさに「和を以って『高し』となす」です。ここ近年、業者会の内容を見直して押し付けでは無い情報提供や、ディスカッションの場を持つ会社が増えているようです。この流れを後押しするかのよう、今までの延長線には無いこれからの令和時代を生き抜くヒントを、新元号が密かに教えてくれているのではないかと思った次第です。

いよいよオリンピックイヤーです。建設業界の総力を結集して完成させた競技施設やインフラが、どのように使われるか今から楽しみです。一方、ポスト五輪時代に入る象徴的な年でもあります。建設業は成熟産業だと思いますが、自助努力による成長・変革の余地は多分に残されています。2020年代に入った今、旧来の枠組みにとらわれず未来に向けダイナミックな進化を目指すべきだと思います。未来は何を求めているか。着実に近づいてくる未来の足音に耳をすませ、想像力を働かせる。そして、未来からの要請に応えるべく創造力を発揮する。青年部らしく未来をたぐり寄せたいと思います。

今後とも島根県出雲地区建設業協会青年部会並びに会員企業をはじめ、関係各位と協同して、諸課題に取り組む所存でございますので、引続きご理解ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。



次世代建設就業者育成事業の背景と目的

本年度は、台風17号、19号により東日本を中心に各地で人的あるいは社会的に甚大な被害を及ぼし、直後の災害復旧、その後の破壊された道路や橋、鉄道、さらに町並みの復旧と復興に果たしている土木工事、建築工事の役割の大きさを見て、多くの人々が建設関係産業の重要性を再認識させられました。また、そこで働く多くの建設技術者、作業者の責任感と担っている社会的責務は、偉大なものであることに気付かされました。

現在、公共事業の大幅な減少とともに建設需要は東京を中心とした大都市と地方との地域間格差、さらには大手と中小での企業間格差が顕在化しており、地域の建設業は依然として厳しい状況に置かれています。また、建設業においては若年技術者・技能労働者の入職者の減少、技能労働者の高齢化といった構造的な問題も深刻な課題となっています。

道路・河川・橋梁、住宅・学校・保育所などの社会資本創出を整備し災害に強い国土作りを進めるとともに、災害発生時には迅速な復旧作業を行い、地域の安心・安全を守る建設業において、若年技術者・技能労働者の入職者の減少は、建設業の問題だけではなく、地域の問題として考えなければならないと考えます。

我々青年部会では、これまで出雲農林高等学校環境科学科2年生を対象に現場見学会に合わせて若手技術者を交えた意見交換会を平成25年度から開催しています。本年度から、出雲農林高校以外の高校にもお声がけをさせていただき、将来の建設業の担い手となる若年者に対して建設業の魅力を発信し、「ものづくりの喜び」「やりがいのある」業界であるというメッセージをしっかりと伝え建設業への入職定着に繋げるため事業を行いました。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 出雲農林高等学校、出雲西高等学校、出雲北陵高等学校
- 開催日 令和元年10月30日(水)
- 参加者 出雲農林高校境科学科2年生 32名、教員2名
出雲西高等学校 2年生 3名、教員1名
出雲北陵高等学校 1年生 10名、2年生13名、教員2名

9:00～12:00	<p>●建設機械搭乗体験 (上塩冶スポーツセンター運動広場) (内容) 重機搭乗体験 アーティキュレートダンプ 2台 バックホウ 0.7m3級 2台 コンバインドローラー 1台</p>	<p>●斐伊川放水路分流堰見学 (斐伊川放水路分流堰) (内容) 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所 による放水路事業説明 斐伊川放水路分流堰・管理棟見学</p>
	●しまね建設産業 イメージアップ女子会による説明(待ち時間を利用)	
12:00～13:00	昼食・休憩・意見交換会	
13:00～15:00	<p>●現場見学会 発注者 国土交通省中国地方整備局 松江国道事務所 受注者 株式会社 フクダ 工事名 大田静間道路鳥井地区改良第3工事 施工場所 島根県大田市鳥井地内 (内容) 松江国道事務所 挨拶及び事業概要等説明 施工現場見学(カルバート工、橋台工) 3D映像による現場のキャドイメージ体験(TV利用) 快適トイレ・休憩所視察</p>	

建設機械搭乗体験



バックホウの搭乗体験



▲ダンプの前で記念撮影▼



コンパインドローラーの搭乗体験



ダンプの搭乗体験

大田静間道路烏井地区改良第3工事



施工中のカルバート工、橋台工を見学しました。



3D映像による現場のCADイメージ体験



松江国道事務所 建設監督官坂田様、株式会社フクダ山様より事業概要と工事内容について説明を受けました。



快適トイレの説明

斐伊川放水路事業説明



分流堰管理棟の屋上から見学



出雲河川事務所 飯田様からの事業説明



分流堰見学

意見交換会



参加した高校生と青年部会の会員と意見交換を行いました。様々な質問が飛び交い、とても活発な意見交換会でした。

テレビ放送・新聞記事掲載



令和元年10月30日(水)放送 NHK



令和元年11月5日(火)放送 出雲ケーブルビジョン



3 高校が現場見学

出雲地区建設業協会青年部会(内藤正和部会長)は10月30日、同市や大田市内で現場見学会を開催し、出雲農林高校など市内3高校の生徒ら約60人が参加した。大田前川遊歩道馬井地区改良第3工事の現場を見学。現場担当者から工事概要や、横割工事の基礎杭に使用する鉄筋の機械



出雲建協青年部

現場で説明を聞く生徒ら＝大田市内
式継手の説明を受け、熱心に見学していた。同青年部ではこれまで、出雲農林高校の生徒を主な対象として現場見学会を開催してきたが、今回は出雲北陵、出雲西岡高校に参加を打診。両校から普通科の1、2年生約90人が参加した。内藤部会長は「建設業との関わりが少ない生徒にも体験や見学を通じて、少しでも多くの魅力を伝えたい」と話した。

令和元年11月2日(土)掲載 興業タイムス

工事現場見学会・意見交換会に参加して

島根県立出雲農林高等学校

環境科学科2年 岡田天翔



今回の現場見学では、学校では勉強しないことや普段入れない所で様々な体験ができて良かったです。僕が今回の現場見学で特に印象に残っているものは一番最初に行った建設機械の搭乗体験です。ダンプやバックホウに実際に乗って運転するという事は初めてだったので非常に良い体験になりました。また、ダンプの運転は車とほとんど同じでしたが、バックホウは操縦レバーが何個もあり、操縦しながら覚えるという感じだったのでかなり難しかったです。今回の搭乗体験で建設機械について知ることができたので良かったです。

次に印象に残っているのは大田・静間道路の見学です。高速道路の見学には何回か行ったことがありましたが、今回の高速道路では実際に出来上がる橋台の75分の1のサイズの模型がありました。出来上がる前からどのようなことができるのかがわかるようになっていたので作業や計画に利用できると思いました。また、パソコンには3D画像で設計図が映し出されていて作る前から意見交換などに役立つのだと思いました。他にも、重機を近くに置いた時にどの位置に置けば一番安全かとかどう回ったら道路に出て危ないだとか安全確認をしっかりとしてから作業をすることができると思いました。

最後に印象に残っているのが斐伊川放水路の見学です。この見学では斐伊川の放水路がなぜ作られたのかとかどうなったら水を流すのかなどを知ることができました。また、普段は絶対にいけない水門の近くまで行くことができました。斐伊川の放水路は見ることはあっても斐伊川の放水路の歴史は全く知らなかったもので、今回知ることができて良かったと思いました。また、斐伊川の放水路が何の役割をしているのかを詳しく丁寧に説明して頂きました。僕は今回の説明を聞くまで斐伊川はあまり長くないと思っていたけど中海まで全部斐伊川だという事がわかりすごく驚きました。

今回の現場見学では初めて知ったり、初めてのことを体験することができて非常に良い経験になったと思うし、今回のことは未来の進路決定や将来にも役に立つことなのでこの経験を踏まえて、今後の学校生活や未来の進路決定に活かしていきたいと思いました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 武田 梨沙

まず、建設機械搭乗体験を行いました。バックホウやアーティキュレートダンプなどに搭乗しました。アーティキュレートダンプは、今まで乗ったことがなかったので乗る前はとても不安でした。しかし、実際に乗ってみると意外と操縦が簡単で、とても楽しかったです。

次にバックホウに乗りました。バックホウは環境科学科のオープンスクールで1度乗ったことがあります。操縦の仕方は全く覚えていませんでした。最初見たときは、アーティキュレートダンプの方が操縦が難しそうに見えました。しかし、乗ってみるとバックホウの方が難しく感じました。その後、島根県の建設業界で働いておられる女性の方々から建設業についてお話を聞きました。最近では、女性でも働きやすいように機械が進化していると聞いてびっくりしました。また、イメージアップ女子会という会があることもはじめて知りました。このような会があると、建設業界に女性が入りやすくなると思いました。

次に、斐伊川放水路分流堰に行きました。斐伊川放水路で1番驚いたことは、斐伊川放水路を作るためにかかる費用が約2500億円だったということです。想像以上の金額にびっくりしました。その他にも、斐伊川は砂河川のため、洪水時に大量の砂が流下する特性があるので、そのためにも沈砂池を設置したり沈砂池に溜まった砂を一時保管する土砂ストックヤードがあると知って驚きました。この放水路と上流のダム、下流の大橋川の改修がセットになって斐伊川の氾濫を防ぐことを知りました。

次に、大田静間道路鳥井地区改良工事の現場に行きました。この道路が作られる3つの理由が、交通事故の減少と渋滞の緩和、一刻を争う救急活動の支援、活発な交流・連携や個性の発揮・経済活力の増進ということで、私たちの生活にとって必要な道路だと思いました。私がこの現場で1番印象に残ったのは、3次元データです。3次元データでは、どこの角度からでもイメージ図を見ることができ、どの機械で作業すると良いのかなどの問題に役立つ最新の技術でした。

今回の体験・見学は今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。普段、体験しない乗り物に乗ることもできて、とても貴重な体験でした。今回の体験を、今後の職業選択の参考にしたいと思います。

工事現場見学会・意見交換会に参加して

出雲北陵高等学校

普通科 2年 川 端 光



10月30日に建設現場見学に行ってきました。建設現場見学には行ったことがなかったので、すごく楽しみでした。出雲西高校の人と一緒にバスに乗って行きました。

まず一番最初に行ったのは、斐伊川放水路でした。斐伊川放水路では、放水路の説明や放水路を動かす機械の説明を聞いたり、下に降りて放水路を近くで見学したりしました。近くで見るとかなり大きくてとても迫力がありました。放水路に水を流す時は、すごい迫力なんだろうなと思いました。

次に上塩冶スポーツセンターに行きました。ここでは、ショベルカーとダンプカーとロードローラーを操縦しました。ショベルカーはショベルの部分を中心に自由に操縦させてもらいました。ショベルカーはオペレーターの指導のもと、自分達で機械を操縦しましたが、動かすためにやるが多すぎてとても難しかったです。ダンプカーは前進と後進をさせてもらいました。普通の車に比べて運転席が少し高くて怖かったです。ロードローラーは運転するのはそこまで難しくは感じませんでしたがショベルカーやダンプカーとは違い早く運転しなければいけなかったのが大変でした。今回、ショベルカーとダンプカーとロードローラーに乗ってみて、建設の仕事をしている人たちが毎日重機に乗って働いていると考えると大変なことだなと思いました。とても良い経験になりました。

最後に僕たちは現場見学会で大田の方に行きました。ここでは地盤改良の工事やカルバートを作っておられました。その工事の発注者は国土交通省で請負金額は税込23,625万円だそうです。その現場で僕たちはCIMについて話を聞いたり、建設物を近くで見ると説明を聞いたりしました。CIMとは、コンストラクション・インフォメーション・モデリングの省略で、意味は『①計画・調査・設計』段階から3次元モデルを導入し、その後の『②施工』『③維持・管理』の各段階においても情報を充実させながらこれを活用することだそうです。建設現場見学をして思ったことは、一歩間違えたら、とても危険なので注意しなければならない仕事だなと思いました。

今日の建設現場見学を終えて建設業の印象が変わりました。最初はつらい労働ばかりでとてもきつい仕事かと思っていましたが、楽しそうに建設業の話をする方々を見て、ただただきついでじゃなく楽しさや、やりがいがあるんだなと思いました。今回の建設現場見学は良い経験になりとても良かったです。ありがとうございました。

工事現場見学会・意見交換会に参加して



出雲西高等学校
普通科 2年 三島 朋尚

僕は始め、建設業には興味がなく、具体的にどんな仕事をするのかわからなかったので体験に参加することにしました。でも、今回の体験を通して今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。重機を動かすことの楽しさ、設計や施工、専門工事業など建設業にもいろいろな役割があることなどを教えてもらいました。正直、初めは建設業に対してあまりよいイメージを持っていませんでしたが、この体験で建設業に興味をわき、僕の将来の進路選択の一つとして考えたいと思いました。

また、建設業には魅力ややりがいがたくさんあることもわかりました。自分たちが作ったものが地図上に残ること、大きなスケールでものづくりができることや協力して一つのものを作り上げることの素晴らしさなどを聞くことができ、良い仕事だと感じました。例えば、家を建てる時には、その家族の要望を聞いて、世界に一つだけのオリジナルのものができます。それができたときの喜び、また、喜んでもらえたときの嬉しさが、この仕事のやりがいだと思いました。

僕は建設業の中でも施工の仕事に一番興味があります。ものを組み立てたり、作ったりすることが好きだからです。また、この仕事は一人では絶対できないことで、人と協力して一つのものを作りあげます。そのためには、しっかりコミュニケーションをとって、信頼関係を築いていくことも大事だと思います。建設業の仕事は、人に喜んでもらえるやりがいのある仕事でもあり、自分が成長できる仕事であると思いました。

この体験は、いろいろなことを学んだり考えたりする本当に良い機会だったと思います。これから、建設業の仕事も含めて、自分の進路についてしっかり考えていきたいと思っています。



しまね建設産業イメージアップ女子会

令和元年10月30日、高校生を対象とした現場見学会に「しまね建設産業イメージアップ女子会」として参加させていただきました。今回で女子会の参加は4回目になりますが、今回は出雲農林高校だけでなく、初めて出雲北陵高校・出雲西高校の生徒さんにも参加させていただきました。

○建設機械搭乗体験（女子会 PR の場）

バックホウとアーティキュレートダンプの搭乗体験の待ち時間を利用して、女子会の活動をPRさせていただきました。

「建設産業イメージアップカレンダー」や「しまね建設女子図鑑」を見てもらいながら、高校卒業後の進路や建設業に対するイメージを質問したり、生徒の皆さんから給料はどのくらいかや、仕事はキツイですかなどの質問を受けたりして、楽しくフランクに交流することができました。

交流を通して、年々女子生徒さんが増えており、女子会カレンダーの知名度も上がってきている印象を受けました。

○現場見学

現場見学では山陰道の現場へ行きました。工事の説明を受けてから実際に安全帯を着けて足場を登ったり、3Dキャドの映像やドローンを見たりしました。生徒の皆さんはドローンが飛行している様子に釘付けでした。また、快適トイレを見た先生方は、最近はきれいで洋式トイレもあったりと、現場の仮設トイレのイメージが変わったと驚いておられました。

普段他の会社の現場を見ることが無いので、私自身も新鮮で刺激を受けました。

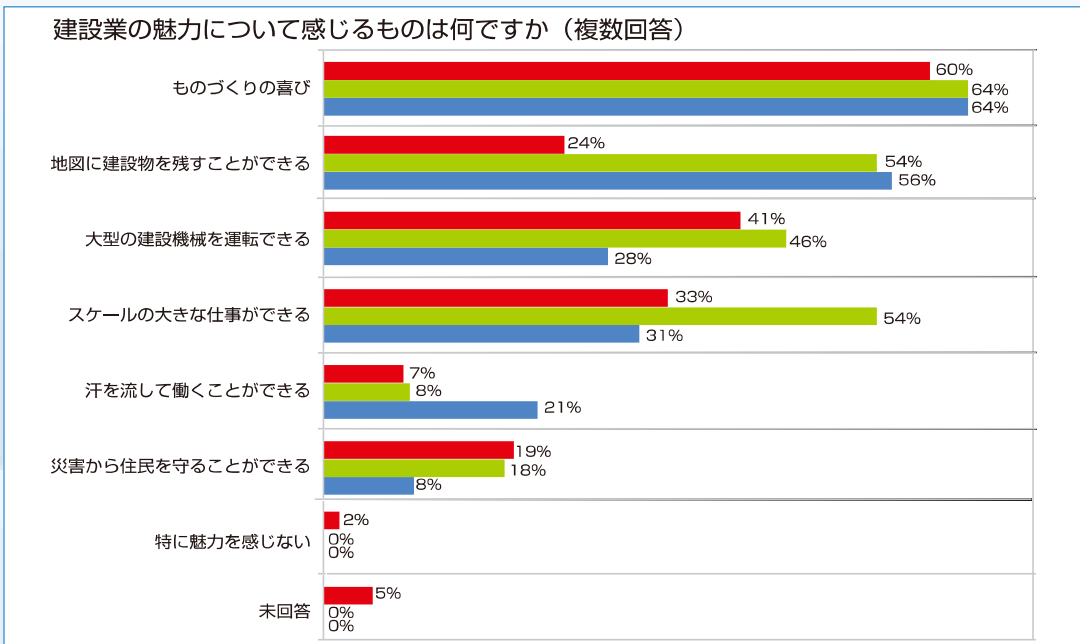
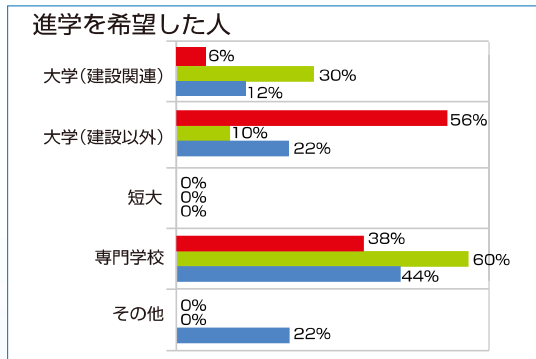
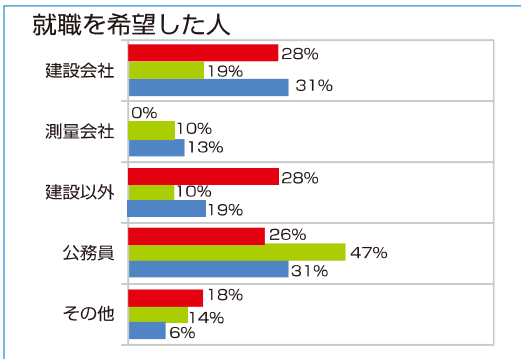
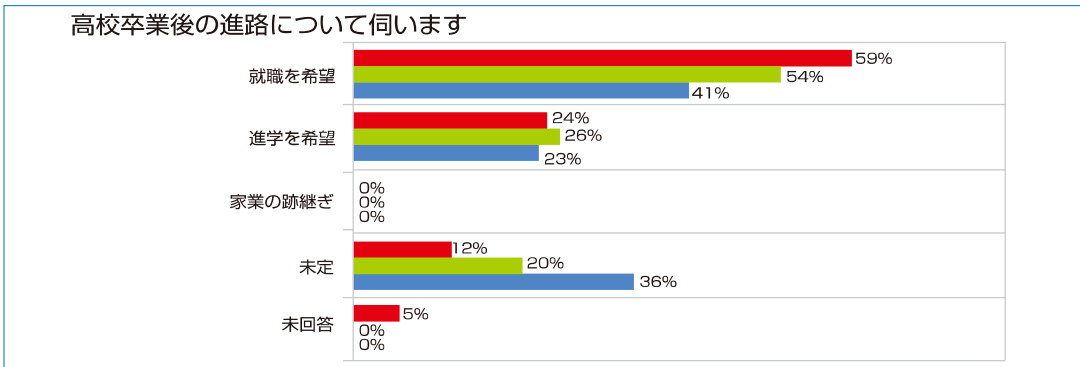
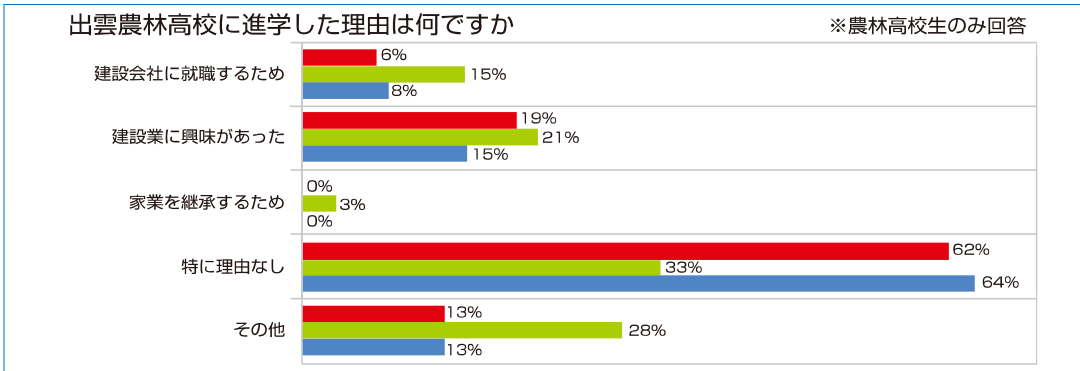
女子会の活動を知ってもらったり、生徒さん達と気軽に交流できることは女子会にとってもとても貴重な機会でした。これからも建設業の魅力を発信し続け、それが未来を担う高校生の皆さんの心に届くと嬉しいです。



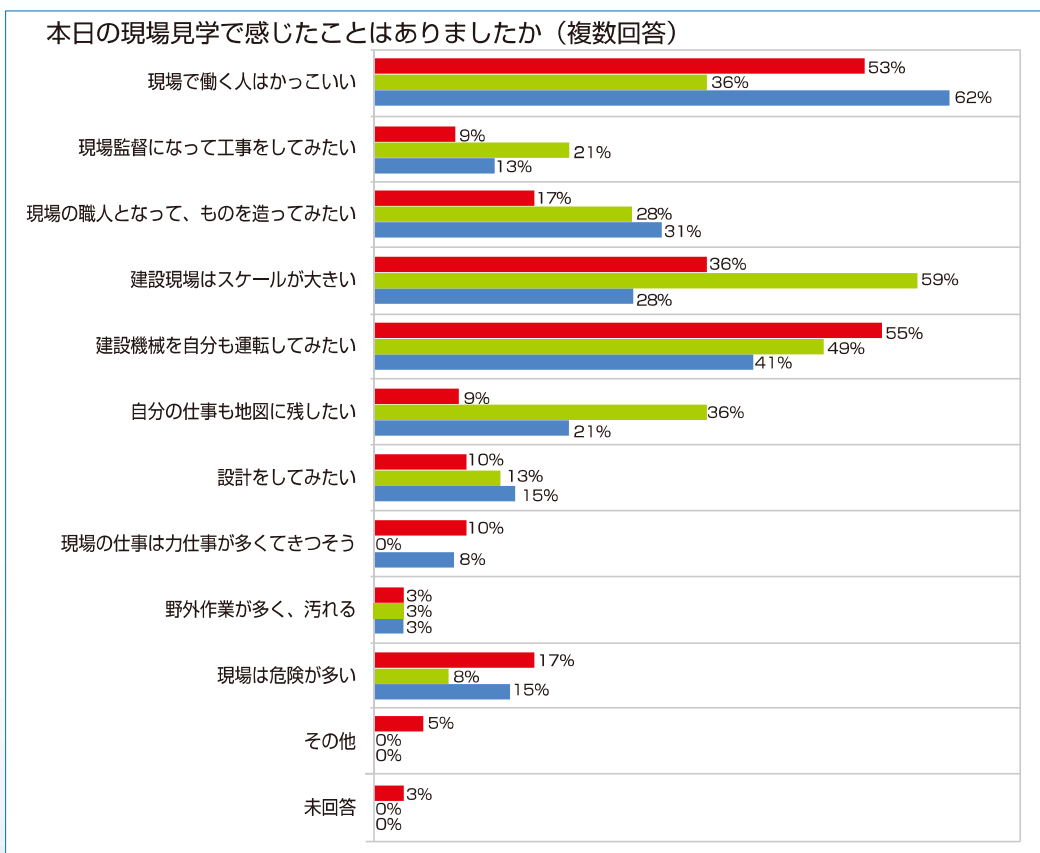
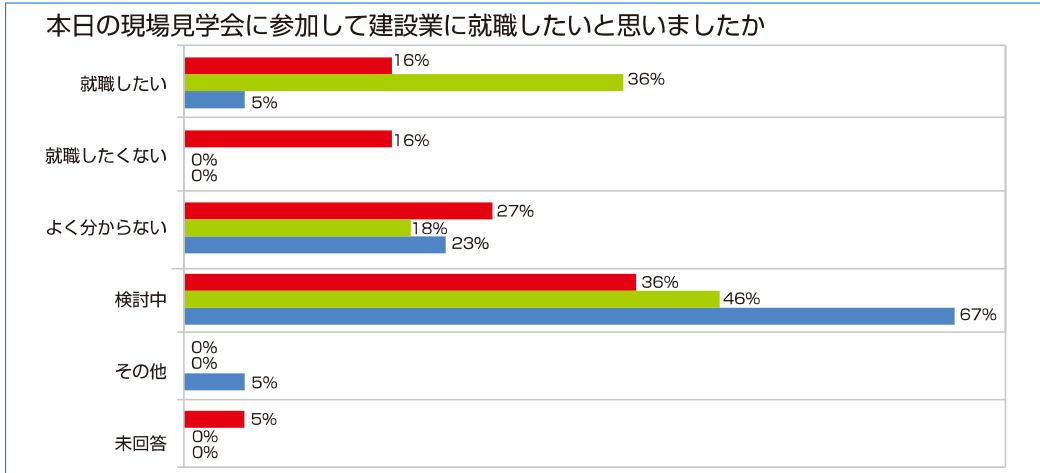
アンケート結果

実施日／対象者

- …令和元年10月30日／見学会参加生徒 58名(出雲農林高校32名、出雲北陵高校23名、出雲西高校3名)
- …平成30年10月30日／見学会参加生徒 39名(出雲農林高校39名)
- …平成29年11月1日／見学会参加生徒 39名(出雲農林高校39名)



■…令和元年度
■…平成30年度
■…平成29年度



アンケート結果(まとめ)

今回の事業では、前回まで参加して頂いている出雲農林高校生の皆さんの他に、出雲西高校、出雲北陵高校の生徒の皆さんにも参加していただきました。

建設業の魅力をどうすれば伝わるのかを考え、普段立ち入ることのできない現場や施設の見学、建設機械の搭乗体験などをしていただきました。それらを通し以下の事を伝えることができました。

- ①建設業が手がけている「街づくり」は、多くの人々の暮らしを支えることにつながっていること
- ②自分が携わった仕事が地図に記録され、後世にまで残っていく「ものづくり」の醍醐味があること
- ③たくさんの人と協力して物事を成し遂げていく喜び

また、「本日の現場見学会に参加して建設業に就職したいと思いましたが」の問いに対しては「就職したい」と「検討中」を合わせると52%もの多くの生徒に、本事業を通して建設業の魅力が伝わった結果興味を抱いていただけたのではないかと思います。

地方の建設業にとって若手技術者・技能労働者の不足は本当に深刻な問題です。そして、地域の方々にとっても「街」の基盤を作る人材の不足というのは深刻な問題だと思えます。今後も更なる人材確保・育成の取組みとして継続的に事業を行う事が必要不可欠であると考えます。

次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を 実施して感じること(考察)



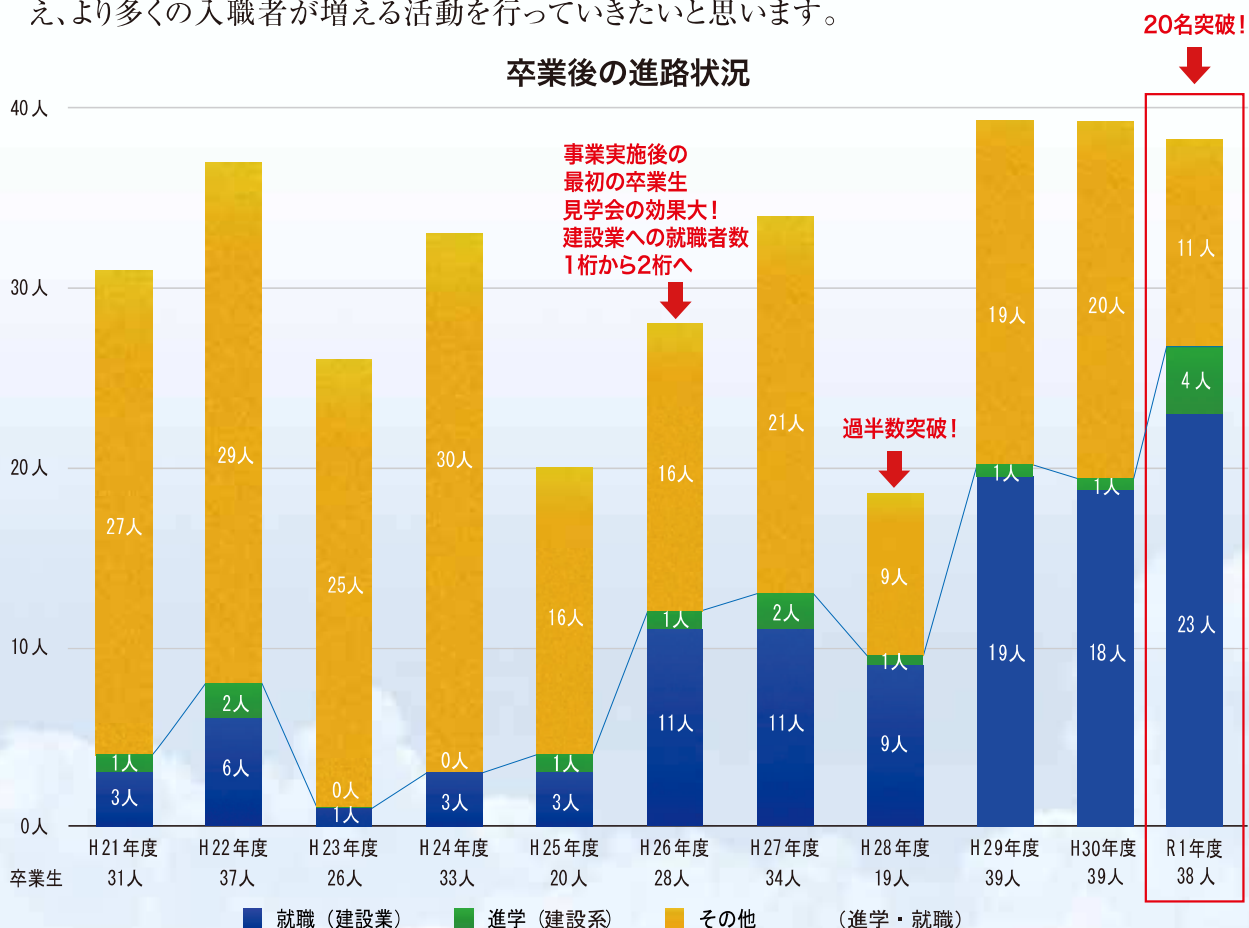
経営研究委員会 委員長
(株)三原組 三原 惇 志

平成25年から実施した現場見学会は今年度で7回目となり、本事業をより多くの方へ周知出来ればとの思いから今年度は出雲西高等学校と出雲北陵高等学校にも参加をして頂きました。

高校卒業後の進路の状況について本事業開始前と開始後の就職先について調査を行いました。アンケート結果からも今年度は例年以上に極めて多くの生徒から興味や関心を頂いている事がわかります。それは東京オリンピックへ向けてのインフラ整備や近年多発している自然災害による甚大な被害情報をTV等で知り、建設業の仕事や必要性を認識することで、興味や好印象を持った方が増えているからだと思います。本事業は普段何気なく見て通る道や橋を作る過程を見て体験してもらうことにより、TVでは分らない「楽しさ」や「やりがい」を肌で感じて頂く事ができます。これから進路を検討して行く生徒達にとって、イメージが湧きやすい体験事業で有り、その結果が成果として現れていると考えます。

今日、建設業界の若手技術者、技能者不足は我々建設業界にとって深刻な問題となっています。それは今まで培ってきた熟練経験者が、引退の時期を迎え、技術継承を受ける若手技術者不足が発生しているためです。人材不足は地域の方々にとっても重要である維持修繕や、自然災害による復興事業などへ影響する、とても深刻な問題だと思えます。

今後も本事業を継続して行い、これから進路を検討される生徒達に、建設業の役割と魅力を伝え、より多くの入職者が増える活動を行っていきたいと思えます。



島根県立出雲農林高校環境科学科 進路決定状況より



出雲農林高校(環境科学科) 中学生一日体験入学支援事業に参加して

経営研究委員会 副委員長

(株)板倉重機 持田 充

令和元年8月9日(金)出雲市内外の中学3年生を対象とした、島根県立出雲農林高等学校主催の一日体験入学に参加しました。

この支援事業も平成28年より実施して今回で4回目となります。これ以外にも、建設業における若手就職希望者の確保・促進の一環として、出雲地区で唯一の土木系専門学科(環境科学科)を有する同校の生徒さんとは、毎年現場見学会や意見交換会および建設機械搭乗体験会を継続的に実施しています。

しかし、建設業界の現状は技術者および作業員の高齢化と深刻な人手不足が続いており、我々青年部会では、中学生を含むより低年齢層へ向けて建設業に対する興味と関心の高揚を図り、魅力をもっと知ってもらうことを重要視し、本事業の協力を行っております。

当日は気温も30度を超える暑さとなりましたが、参加した総勢39人の中学生を午前の部(2回)と午後の部(2回)に分け、青年部会で用意した建設機械3台(0.25㎡バックホウ2台・0.2㎡バックホウ1台)の搭乗体験(掘削)をメインに実施したほか、建設現場の写真のパネル展示や、環境科学科の生徒が現場見学会の体験を基に作製したDVDの視聴をして頂きました。

バックホウの搭乗体験では、青年部会員からの運転操作等の説明時には緊張した表情でしたが、実際に土を掘る操作が始まると真剣な表情から次第に表情も柔らかくなり、乗り終わるとみんな笑顔だったのが印象的でした。中にはYouTube動画でバックホウ操作をシミュレーションしてきた生徒がいたのには驚きましたが、興味を持った子供達が少なからず存在することに嬉しく思いました。

パネル展示やDVD視聴では、写真を見ながら建設現場での仕事の内容等を説明し、積極的に質問をする生徒も見受けられ、建設業界の魅力をアピールするとともに良い交流の場となりました。

また、環境科学科の生徒が積極的に中学生に話しかけて、学校生活での質問についてもしっかり笑顔で対応していました。

最後に、建設業界も人手不足の状況ですが、現在環境科学科を希望する生徒も減少しているようです。

しかしながら、近年は建設業に対する悪いイメージ(汚い・きつい・危険)を改善する努力が進み、男女問わず働ける作業環境が整いつつあります。

今回一日体験入学に参加された中学生にとって、今後の進路に対する意識付けとなって、将来建設業への就職者が1人でも多く増える事を願っています。



地域貢献事業報告



第20回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 ～2019道路清掃～

地域貢献委員会 委員長

今岡工務店 今岡 宏典

出雲地区建設業協会青年部会の事業として、令和元年7月24日に『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』を実施しました。昨年度に引き続き、出雲市駅周辺の県道・市道の歩道部について、ゴミ拾いを会員36名、事務局2名、協力会社3名の合計41名で行い、成果としては可燃ごみ・不燃ごみ合わせて約10kg回収しました。

皆さんも、出雲市駅周辺は車で通ったり、歩かれたことがあるかと思いますが、目立って落ちているゴミはなく、きれいな出雲市の街だという印象があると思います。実際に清掃活動を行った際にも、目立つようなところには、ゴミはほとんどありませんでした。しかし、ゆっくり歩き目を凝らしてみると、植込みの中に空き缶・お菓子の袋等、歩道の際にタバコの吸い殻等が捨てられているのがわかります。予想していた以上にゴミを回収でき、後日行われた出雲神話祭り、出雲盆踊りの会場として賑わった駅周辺の美化に貢献できたのではないかと思います。

この事業を通じて、参加された皆さんには普段から“目についたらゴミを拾い、わが町をきれいにしよう”という意識が芽生えたと思います。これからも、地域に貢献していけるような事業として継続できたらと思います。



会員交流事業報告



意見交換会2019

会員交流委員会 委員

(株)中筋組 石 飛 大 輔

令和元年10月16日に出雲建設会館において、青年部会経営研究委員会が担当する、「意見交換会2019」を開催致しました。

研修会では、出雲県土整備事務所より東部県民センター建築課 課長 松本英伸様、土木工務部都市整備課 係長 下垣智之様、技術専門監 福島昇様をお迎えし、ご講演いただきました。

松本課長には「浜山公園野球場改築工事の進捗状況について」と題し、改築工事を計画する上で現状の問題点をどのように改善計画をし、現況どこまで工事が進捗しているのかご講演していただきました。利用者がより良い環境で利用できるように様々な角度から協議・検討が行われ、品質管理を徹底していることを知ることが出来ました。

下垣係長には「神門通り線（2工区）について」と題し、神門通りの歴史、事業計画の概要・スケジュールについてご講演していただきました。インフラ整備をすることによる自動車速度の低減を図り安心して楽しみながら歩ける道へ。観光客のまち歩きエリアの拡大による雇用創出・地域活性化を事業の整備効果として挙げておられ、出雲大社周辺に観光客や地元の方も含め賑わう様子が想像できました。

福島技術専門監には「知って！来て！楽しんで！しまねの自然公園満喫プロジェクト」と題し、日本の国立公園は優れた自然のみならず、その自然に育まれた伝統文化や食などの地元特有の人の暮らしに触れられる公園として非日常的な体験を世界の人々に提供しインバウンド市場を創造させる事が必要だと講演していただきました。外国人観光客数が増加している中でインバウンド観光は日本らしい地域で地元ガイドがいればどの地域でも実施出来て、国立公園の素晴らしさを知ることができました。



会員交流事業報告



土木の日記念イベント2019

地域貢献委員会 委員

(株)今岡興産 日野 肇

今年で5回目となる『土木の日記念イベント』を、国土交通省出雲河川事務所・島根県出雲県土整備事務所・出雲市・しまね建設産業イメージアップ女子会の皆様とともに、11月16日に開催しました。

青年部会では、メイン会場の上塩冶スポーツセンターで、ドボク模型・ミニチュア重機・ものづくりなど、またサブ会場の斐伊川放水路内で、バックホウ・高所作業車・タイヤローラー・グレーダーの搭乗体験のブース等を担当しました。私は今回初めて参加させてもらい「トンネルはなぜ崩れないか」という仕組みをドボク模型を使用し説明しました。当日は藤井基礎設計様に模型をお借りし一緒に説明して頂きましたが、私の拙い説明を一生懸命聞いてくれている子供達への補足や、専門用語を使って鋭い質問をしてくるお母さんにたじろぐ私をフォローしていただき大変助かりました。

メイン会場ではミニチュア重機コーナーが小さな子に大人気で「やっぱり子供は重機が好きなんだな」と感じました。また、ものづくりコーナーでは講師の方の指導の下、売り物ではないかと思えるようなクオリティの木工細工を楽しそうに作っているお母さんと娘さんの微笑ましい姿もありました。サブ会場では、遠くから見ただけですが、重機に乗って写真撮影をしたり高所作業車に搭乗するために順番待ちをしている子供達がたくさんいて賑わっていました。

今回参加させて頂き来場された方々に説明することの難しさや、自分の知識不足を痛感する場面もありましたが、こんな私でも少しは建設業に興味をもってもらえるようお手伝いできたのかなと思っています。

最後になりましたが、土木の日記念イベントにたずさわられたすべての皆様、本当にありがとうございました。



卒業にあたり



今岡工業(株) 今岡 幹 晴

2002年入会以来18年の長きにわたり在籍させて頂きました。

この約20年間は、まさに激動というにふさわしい時代で、特に建設業界は180度までとは言わなくても、大きく変化し、進化したように感じます。

青年部の事業の方も、入会当初は道路や海岸の清掃や、親睦交流がメインだったように記憶していますが、近年は発注者との意見交換や、担い手確保に重点をおいた事業等、業界の課題解決に向けての数多くの事業が行われるようになりました。

私も、28歳から46歳迄のまさに青年時代を青年部に在籍し、県協会にも出向したことから、島根県内外の多くの方との交流を深め、各地の業界の実情等も知ることができました。今日まで、微力ながら活動できたことは、会員の皆様や事務局の方の御理解と御協力があったのと改めて感謝を致しております。

今後も業界における課題は山積しておりますが、若い力を集め、既成の概念に捉わられることなく、活発な青年部活動を展開されますことを期待し、御礼と致します。



岩成工業(株) 西村 善 文

平成27年度に青年部会に入会させていただいてから5年の歳月が過ぎ、いよいよ卒業の時を迎えることとなりました。

平成27年度は会員交流委員会、平成28年度からは経営研究委員会に所属させていただきました。入会当初は私の力不足により青年部の活動に貢献できませんでしたが、経営研究委員会も4年目になり経営研究委員会の事業にもやっと慣れてきました。来年は三原委員長負担軽減のために、事業の一つでも担当しようかと思っていたら、卒業の時を迎えることになり、とてもとても残念です。

5年を振り返り、青年部に入会していなければ知り合うことのなかった会員の皆様と交流することができ、多くの事業を経験できたことは、私にとって一番の宝物です。

最後に、すでに卒業された先輩方及び会員の皆様、そして事務局の皆様、お世話になりました。青年部会の今後益々のご発展と会員の方々のご活躍をお祈り申し上げます。

本当にありがとうございました。



(株)日本海建設 青 砥 正 人

この度、青年部会を卒業させていただくこととなりました。平成24年度に入会させて頂いてから8年間、皆様のおかげで大過なく卒業を迎えさせて頂きましたことを深く感謝申し上げます。

在籍中は多くの事業に参加させて頂きました。特に思い出されるのは、やはり創立20周年の事業です。周年事業委員長という大役をお受けし前年度から準備を始めて迎えた平成29年度は創立20周年の事業に明け暮れた日々でした。この事業では会員・事務局、多数の皆様にお世話になり無事に終えることができました。その中でも、力不足の私を力強くバックアップしていただいた当時の山崎部会長と大野運営専務、私の無理難題を嫌な顔もせず快く協力していただいたE戸さんとM原さんとは多くの時間を共に活動させて頂き楽しい思い出です。長いようで短かった8年間、中身の濃いお付き合いをさせていただいた皆様との繋がりは私にとって一番の財産となりました。

最後になりますが皆様には大変お世話になりました。楽しい時間をありがとうございました。



(有)丸嘉土建 山根 英二

平成23年に青年部会に入会し9年間在籍させていただきました。いろいろな方にご迷惑をおかけしましたが、皆様と一緒に様々な活動ができ、会員の皆様と交流ができたことは自分にとって非常に有意義な経験だったと思います。

一番印象に残っているのは、地域貢献委員会で携わった活動です。

『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』では、猛暑の中、空港周辺道路を刈払機を担ぎ草刈をしたり、出雲市駅周辺の歩道の清掃活動を行いました。

また、国土交通省・島根県・出雲市等の他団体と協力し『土木の日記念イベント』を行い、地域住民の皆様にも多数参加していただきました。日常の業務とは異なる活動に参加させて頂き大変貴重な経験をさせていただきました。

今後も、この青年部会を通じて知り合った皆様との縁、経験を大切にして活動していきたいと思っております。最後になりますが、会員並びに事務局の皆様にはお世話になり本当にありがとうございました。



(株)内藤組 内藤 正和

平成20年度に青年部会に入会させていただいてから12年が経ち、時代も平成から令和へ改元し建設業界を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況に変わりはないと感じます。

青年部会に入会してから今日までの間、多くの皆様とネットワークを築くことが出来ました。青年部会ならではの出逢いや経験もさせていただき、その中で多くの知識も得ることが出来たことは、一生の財産になりました。そして、出逢った皆様と同時期に過ごせたことは、何よりの報酬であったと思います。

また自分が、この青年部会の部会長をさせていただくことになるとは思っていませんでしたが、皆様のご支援とご協力で全ての事業がしっかりと行うことが出来ました。自分にとって青年部会長での様々な経験は、とても価値のあることでした。と同時に、この機会を与えていただいたことに感謝をしております。

最後に12年間で出逢った多くの方々に感謝を申し上げて、御礼とさせていただきます。令和2年度新部会長のもとで、青年部会の更なる可能性に期待をいたします。ありがとうございました。



(株)佐藤組 佐藤 精一

この度無事卒業を迎える事となりました。

入会時から振り返ると総務委員会と広報委員会がひとつとなり、新たに地域貢献委員会が創設され、定年の延長や新しい事業の取り組み等、様々な形で「変化」していく事と「行動力」のある会であったように思います。

また、多くの役職を経験させて頂くことでたくさんの人と出会い、数々の事業に参加することができ、大変貴重な経験をさせて頂く事が出来ました。

そして、この卒業という日を迎えることが出来たのは諸先輩方の御指導、皆様のご協力のおかげと深く感謝申し上げますとともに、青年部の益々の発展を心からお祈り申し上げます。

最後になりましたが、酒席においては国内にとどまらず数多くの失態をその「行動力」でカバーして頂いた皆様、どうかこれからもそこだけは「変化」しない対応でよろしくお願い致します。

新入会員紹介



出雲土建(株) 石 飛 善 行

今年度より出雲地区建設業協会青年部会へ入会させていただきました出雲土建株式会社の石飛善行と申します。

建設業を取り巻く環境が年々厳しくなっており、様々な問題があると思います。中でも工事現場で働く技能労働者は55歳以上が1/3を占め、10年後には大半が引退してしまうという状況にあります。青年部では、建設業に興味を持ってもらうため、土木の日のイベントや現場見学会など、各事業者単位ではできないイメージアップに取り組みされており、それに参加できることは非常に意義のあることと思っています。

また、近年は激甚災害に指定されるような自然災害が毎年のように発生しています。万が一、有事の際には、私たち地元建設業が協力して大きな役割を果たす必要があると思います。そのためにも常日頃より青年部の活動を通して地域へ貢献することが重要であると思います。

今後も建設業のイメージアップ、地域の守り手としての取り組み等に積極的に参加したいと思いますので、ご指導よろしくお願いたします。



ヒロシ(株) 落 合 和 典

今年度から出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただきましたヒロシ株式会社の落合和典と申します。

出雲工業高校を卒業し電気工事業に10年勤めその後県内外のベンチャー企業に勤めておりましたが、ご縁をいただきヒロシ株式会社に入社しました。

青年部会に入会するにあたり初めは不安だらけでしたが、先輩方の温かいご指導もあり不安はすぐに解消されました。

経営研究委員会に所属し、ボランティア活動、農林高校の中学生一日体験入学、意見交換会、高校生との現場見学会、土木の日記念イベントなど、様々な活動に参加させていただきました。

今後も様々な活動を通じ、建設業のイメージアップや担い手確保、そして地域に無くてはならない建設業の発展に少しでも貢献できればと思っております。

まだまだ至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯頑張りますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



(有)米江組 米 江 将

今年度から出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただき、総務広報委員会で活動させていただいております、(有)米江組の米江将と申します。

私は専門学校卒業後、スポーツ用品関係の会社に数年間勤務しておりましたが平成21年に家業であります弊社へ入社し、今に至っております。

今建設業界が抱えている課題として最初に挙げられるのが、「人材確保」の課題です。

先日も「人材不足倒産」の話題をニュースで聞いておりました。建設業のみならずどの業界も同じ悩みを抱えているようです。

この課題がある中で、いかに若者が建設業に対する魅力、関心を持ってもらえるか、それが我々青年部の役目ではないかと感じております。

私も微力ながら精一杯頑張りたいと思っておりますので、御指導の程よろしくお願いたします。

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 歴代部会長

初代部会長	山本恭則	平成9年度
第2代部会長	今岡裕統	平成10～13年度
第3代部会長	別所幸雄	平成14～15年度
第4代部会長	広戸 修	平成16～17年度
第5代部会長	久文秀典	平成18～19年度
第6代部会長	山崎章弘	平成20～21年度
第7代部会長	山口 弥	平成22～23年度
第8代部会長	梅野直宏	平成24～27年度
第9代部会長	山崎育男	平成28～29年度

編集後記

毎年話題になった言葉に贈られる「現代用語の基礎知識選 2019ユーキャン新語・流行語大賞」が昨年の12月2日発表されました。年間大賞にはラグビー・ワールドカップ（W杯）で日本代表を率いたジェイミー・ジョセフ・ヘッドコーチが掲げた『ONE TEAM（ワンチーム）』が選ばれました。

ヘッドコーチは日本代表選手たちが出身地（国）、文化、様々な生まれや背景が違っていても目標に向かって一致団結しその違いを乗り越えて一つになる結束したチームになるんだという思いをこめ『ONE TEAM』というスローガンに決められました。

そして7カ国15人の海外出身選手を含む31人の選手は「桜の戦士ワンチーム」として快進撃を続け、日本ラグビー史上初の（W杯）決勝トーナメント進出をはたしました。

国民の誰もが選手たちの自分ではなくチームの為の献身なプレーに心を奪われ感動したことと思います。日本がこのワールドカップで盛り上がっている中、関東圏中心に上陸した台風15号により今年も大災害にみまわれました。今なお復興が思うように進んでない状況です。ここ近年、日本各地で大災害が発生しています。

我々の携わっている建設業はその地に住まわれる方々の安全安心な生活を支えるため防災対策、災害復興など社会において重要な責務があります。

ただ、ここ近年建設業に魅力がないのか若い方の従事者が年々減少してきています。将来に自信をもてる、働き甲斐のある業界にしていかなければ若者離れが進んでいくのではないのでしょうか。

建設業はまだまだ難題を多数抱えています。業界に携わる誰もが、業界、地域の為に『ONE TEAM』を結成できればこの難題も乗り越えられるのではないのでしょうか。

総務広報委員会 委員 御船 善弘

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。